

三重県病院事業 中期経営計画
(平成25年度～平成27年度)

平成26年度 of 取組成果と課題

平成27年5月
三重県病院事業庁

目 次

	頁
はじめに	1
第1章 ころの医療センター	
平成26年度の取組成果と残された課題（総括）	2～3
平成26年度の目標に対する成果と課題	
1 重点的な取組	
病院機能の再編・推進	4
2 役割及び機能の充実に向けた取組	
(1) 精神科医療の中核病院としての取組	5
①精神科救急・急性期医療の推進	
②県全体の医療水準の向上に寄与する研修機会の提供	
③人材の確保・育成	
(2) 地域生活支援体制の充実に向けた取組	6～7
①地域移行支援の体制整備	
②地域精神保健福祉の連携体制の強化	
③精神疾患・障がいにかかる普及啓発	
(3) 高度・先進医療の取組	7～9
①精神科早期介入・予防	
②アルコール依存症治療	
③認知症治療	
④重度療養患者に対する治療	
3 経営の健全化及び業務改善に向けた取組	
(1) 経営の健全化に向けた取組	9～10
①病院機能の再編・推進を踏まえた健全経営	
②外来収益	
③入院収益	
(2) 業務改善に向けた取組	10
①患者や家族の皆さんの視点に立った医療の提供	
②医療安全対策	
③患者満足度の向上	
第2章 一志病院	
平成26年度の取組成果と残された課題（総括）	11～12
平成26年度の目標に対する成果と課題	
1 重点的な取組	
地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり	13～14

2 役割及び機能の充実に向けた取組	
(1) 家庭医を中心とした地域医療の取組	14～16
①家庭医療	
②地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり	
③予防医療	
④在宅療養支援	
⑤救急医療	
(2) 地域医療を担う人材の教育	16
①家庭医の育成	
②看護師等の育成	
③医療従事者の能力向上	
(3) 家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究	16～17
3 経営の健全化及び業務改善に向けた取組	
(1) 経営の健全化に向けた取組	17～18
①収支改善	
②収益確保	
③費用縮減	
(2) 業務改善に向けた取組	18～19
①医療情報システムの導入	
②休止中の施設活用の検討	
③患者満足度の向上	

第3章 県立病院課

平成26年度の取組成果と残された課題（総括）	20
平成26年度の目標に対する成果と課題	
1 重点的な取組	
医師師、看護師の確保	21
2 役割及び機能の充実に向けた取組	
(1) 戦略的な経営の推進	21
(2) 人材の確保・育成	21～22
①医師の確保	
②看護師等の確保・定着	
③職員の専門性の向上	
3 経営の健全化及び業務改善に向けた取組	
(1) 経営の健全化及び業務改善	22～23
①病院の経営面の改善・支援	
②志摩病院指定管理者の指導・監督	
(2) 県立病院改革にかかる取組	23

用語解説	24～26
----------------	-------

はじめに

「三重県病院事業 中期経営計画（平成25年度～平成27年度）」については、その着実な推進を図るため、計画期間中の各年度における具体的な取組を掲げる「年度計画」を策定することとしています。

「平成26年度 年度計画」については、中期経営計画の2年目にあたることから、平成25年度の取組状況と課題を踏まえつつ、最終年度である平成27年度の取組に確実かつ効果的につなげていくことを念頭に置いて策定しました。

平成26年度は、この計画に基づき、こころの医療センターにおいては、精神科医療の中核病院としての取組など、一志病院においては、家庭医を中心とした地域医療の取組など、それぞれの役割やニーズに応じた病院運営を実施するとともに、経営の健全化に向けて取り組んできました。

また、志摩病院については、指定管理者である公益社団法人 地域医療振興協会により、診療体制の段階的な回復を図りつつ、運営を行ってきました。

なお、平成27年度の病院事業の運営にあたっては、中期経営計画の最終年度として、その達成に向けて、過去2ヶ年の取組成果や課題等を踏まえながら、必要となる取組を推進し、県民の皆さんに安全で良質な医療を安定的、継続的に提供していきます。

第1章 こころの医療センター

平成26年度 of 取組成果と残された課題（総括）

こころの医療センターにおいては、精神科救急医療などの政策的医療やアルコール依存症治療、認知症治療、精神科早期介入・予防などの高度・先進医療に取り組むなど、三重県の精神科医療の中核病院としての役割を果たしてきました。

また、国の医療政策において、「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という今後の精神科医療の方向性が示されている中、あるべき精神科医療の姿をめざして、平均在院日数の短縮を図るとともに、外来診療機能の充実や訪問看護等のアウトリーチサービス体制の強化など、病院機能の再編を進めてきました。

1 病院機能の再編・推進

入院診療については、急性期病棟において医師を重点的に配置することにより診療機能を向上させるとともに、重度療養病棟へ新たに作業療法士を配置し、長期入院患者の日常生活能力の向上を図っていくための支援に取り組みました。

また、外来診療については、平成25年度末に整備した外来棟を活用し、アルコール外来やもの忘れ外来の診療枠を拡充するとともに、訪問看護等のアウトリーチサービス体制の強化や、作業療法、デイケアといった日中活動支援の一層の充実に向けた検討を進めました。

引き続き、病院機能の再編に向け、外来診療機能やアウトリーチサービス、日中活動支援を充実させていく必要があります。

2 精神科医療の中核病院としての取組

(1) 精神科救急医療については、三重県精神科救急医療システムにおける支援病院として、休日・時間外などの救急患者の受入れに対応するとともに、自傷・他害のおそれがある場合に実施する措置鑑定診察の要請に積極的に対応しました。

引き続き、救急・急性期医療を充実させることにより、寛解率の向上に努め、早期の退院等につなげていく必要があります。

(2) 県内の精神科医療水準の向上を図るため病院、看護学校等からの初期研修医、実習生の受入れに積極的に対応するとともに、職員の専門性の向上を図るため、精神保健指定医資格や認定看護師資格などの取得に取り組みました。

引き続き、初期研修医や実習生を積極的に受入れるとともに、職員の専門性の向上に努めていく必要があります。

3 地域生活支援体制の充実に向けた取組

(1) 地域精神保健福祉の連携体制の強化を図るため、「地域精神保健医療体制検討会」の設置に向け、津保健所等関係機関と調整を図ってきました。今後は、津保健所が開催する「津地域精神保健福祉連絡協議会」を活用し、多様な精神疾患に関する課題や支援のための連携体制について、関係機関と検討を進めていきます。

(2) 精神障がい者や精神疾患に対する正しい理解を広めるための出前講座「こころしっとこセミナー」について、教育機関等からの講師派遣依頼に対して積極的に応じるとともに、県民に開かれた病院をめざした地域住民との交流の場として、「こころしっとこ祭」を開催しました。

今後も、これらの取組を通じて、精神疾患に関する普及啓発に積極的に取り組んでいく必要があります。

4 高度・先進医療の取組

(1) 精神科における「早期発見・早期支援・早期治療」の拠点として、院内に設置している「ユース・メンタルサポートセンターM I E (YMSC-MIE)」の運営を通じて、精神疾患に悩む若者やその家族に対して支援を行いました。症状の重症化を防止するためには、早期の対応が重要であることから、引き続き、教育機関等と緊密に連携し、精神疾患の症状に悩む若者への支援が行えるよう積極的に取り組んでいく必要があります。

(2) アルコール依存症治療の専門病棟を有する病院として、充実した治療プログラムを提供するとともに、アルコール外来の初診枠を拡充しました。

また、アルコール摂取の危険性に関する啓発を目的とした県民公開講座を開催しました。

引き続き、アルコール依存症に関する専門的な研修を履修したスタッフによる、充実した治療プログラムを提供するとともに、アルコール専門のデイケアを実施するなど外来患者のニーズに対応した取組を進めていく必要があります。

なお、当院は、「三重県飲酒運転^{ゼロ}をめざす条例」に基づく指定医療機関であることから、飲酒運転違反者の診断や普及啓発活動についても積極的に取り組んでいきます。

5 経営の健全化に向けた取組

精神科医療における「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という考え方を踏まえた様々な早期退院を促進する取組により、入院患者の平均在院日数が短縮し、延べ入院患者数の減少につながったことなどから医業収益が減少しましたが、経常損益については、前年度に引き続き黒字を確保することができました。

引き続き、診療報酬改定の動向等を見定め、医療サービスが収益にも確実に反映できるよう対応していく必要があります。

平成26年度の目標に対する成果と課題

1 重点的な取組

病院機能の再編・推進

国の医療政策において、「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という今後の精神科医療の方向性が示されている中、病院機能の再編を進めてきました。

入院診療については、急性期病棟において医師を重点的に配置することにより診療機能を向上させるとともに、重度療養病棟へ新たに作業療法士を配置し、長期入院患者の日常生活能力の向上を図っていくための支援に取り組みました。

外来診療については、平成25年度末に整備した外来棟を活用し、アルコール外来やもの忘れ外来の診療枠を拡充するとともに、訪問看護等のアウトリーチサービス体制の強化(平成26年9月から4人体制を5人体制に拡充)を図りました。この結果、訪問看護件数が前年度に比べて大幅に増加(H25年度3,751件 → H26年度4,537件)し、目標件数程度の充実を図ることができました。

また、作業療法やデイケアといった日中活動支援の一層の充実に向けた検討を進めました。引き続き、病院機能の再編に向け、外来診療機能やアウトリーチサービス、日中活動支援を充実させていく必要があります。



訪問看護のリーフレット

目標項目	H26 目標	H26 実績
訪問看護件数 (件)	4, 5 5 0	4, 5 3 7

2 役割及び機能の充実に向けた取組

(1) 精神科医療の中核病院としての取組

① 精神科救急・急性期医療の推進

三重県精神科救急医療システムの支援病院として、休日・時間外などの救急患者の受入れに対応するとともに、自傷・他害のおそれがある場合に実施する措置鑑定診察の要請に対しても、100%（49件）の受入れを行いました。受入患者数については、目標数までには至りませんでした。

なお、急性期病棟における診療報酬上の基準である入院患者の寛解率 60%を上回る割合を確保（68%）するなど、患者の円滑な社会復帰に向けて、一定の成果を上げることができました。

引き続き、救急・急性期医療の充実を図り、寛解率の向上に努め、早期の退院等につなげていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
精神科救急患者数（人）	220	212

② 県全体の医療水準の向上に寄与する研修機会の提供

病院、看護学校等からの初期研修医、実習生の受入れ依頼に 100%対応しましたが、受入人数については、目標数までには至りませんでした。

県内の精神科医療水準の向上のため、医師、看護師、コメディカル職種の研修医・研修生・実習生を引き続き積極的に受入れていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
看護実習等受入人数（人）	2,200	2,074

③ 人材の確保・育成

職員の専門性を向上させるため、様々な資格の取得を促進しており、平成26年度には、精神保健指定医の資格（1名）や感染管理認定看護師の資格を取得（1名）しました。

また、院内全職員を対象として毎年度実施している研修（精神医学基礎講座）により、患者の家族に対する支援の充実についての知識の向上を図りました。

精神保健指定医や、看護の専門性の向上を図るための専門・認定看護師などの確保・育成に取り組むとともに、院内研修センターによる人材育成研修の実施や、県立看護大学との連携協定に基づく取組、三重大学、医療機関との交流・連携の推進など、引き続き精神科医療スタッフのスキル向上を図っていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
人材育成研修開催数（回） （院内研修センター実施分）	1	1

(2) 地域生活支援体制の充実に向けた取組

① 地域移行支援の体制整備

相談支援事業所を中心に病院、市町、障がい福祉サービス事業所などが連携して長期入院患者の地域移行を支援する県の制度（精神障がい者地域移行・地域定着支援事業）も活用しながら、長期入院患者の退院支援に取り組み、4名の退院につなげましたが、目標数を確保することはできませんでした。

引き続き、関係機関と連携しながら、長期入院患者の社会復帰を促進するとともに、地域生活を行いながら適切な治療ができるよう支援するため、訪問看護やデイケア等の充実を図っていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
長期入院患者（5年超）退院数（件）	8	4

② 地域精神保健福祉の連携体制の強化

地域精神保健医療体制検討会の開催に向け、津保健所等関係機関との調整を行ってきました。今後、津保健所が設置する「津地域精神保健福祉連絡協議会」を活用し、多様な精神疾患に関する課題や支援のための連携体制について、関係機関と検討を進めていきます。

目標項目	H26 目標	H26 実績
地域精神保健医療体制検討会開催数（回）	1	設置

③ 精神疾患・障がいにかかる普及啓発

精神障がい者や精神疾患に対する正しい理解を広めるための出前講座「こころしっとこセミナー」について、教育機関等からの講師派遣依頼に対して、目標数を上回る対応を行うとともに、県民に開かれた病院をめざした地域住民との交流の場づくりとして、「こころしっとこ祭」を開催（H26年10月 参加者約300名）しました。

引き続き、セミナーへの講師派遣について十分にPRを進めながら、派遣依頼に応えていく必要があります。



しっとこセミナー（精神疾患について）
平成26年5月22日開催



こころしっとこ祭
平成26年10月25日開催

目標項目	H26 目標	H26 実績
こころしっとこセミナー件数 (件)	23	25

(3) 高度・先進医療の取組

① 精神科早期介入・予防

精神科における「早期発見・早期支援・早期治療」の拠点として院内に設置している「ユース・メンタルサポートセンターMIE (YMSC-MIE)」の運営を通じて、精神疾患に悩む若者やその家族等に対し、きめ細やかな支援を行い、目標を上回る件数の対応を行うことができました。

また、教職員、保護者、生徒を対象とした研修会 (17 回) や教育機関との連絡会議 (4 回) を開催するとともに、県民を対象としたシンポジウムを開催 (H27 年 3 月 参加者約 90 名) しました。

症状の重症化を防止するためには、早期の対応が重要であることから、引き続き、教育機関等と緊密に連携して取り組んでいく必要があります。



シンポジウム (自分の安全を守れない若者たち)
平成 27 年 3 月 14 日開催

目標項目	H26 目標	H26 実績
早期介入対応件数 (件)	195	213

② アルコール依存症治療

アルコール依存症治療の専門病棟を有する病院として、専門研修を履修したスタッフによる充実した治療プログラムを提供しました。

アルコール病棟の入院患者数については、新規入院患者数が前年度と同程度 (H25 年度 185 人 → H26 年度 180 人) であったものの、平均在院日数が短縮 (H25 年度 67.8 日 → H26 年度 63.2 日) したことなどにより、1 日当たりの入院患者数は目標までには至りませんでした。また、アルコール外来診療については、平成 26 年 11 月から初診枠の拡充 (月 12 回 → 月 15 回) を実施し診療体制を強化したことから、延べ外来患者数が増加 (H25 年度 5,050 人 → H26 年度 5,154 人) しました。

さらに、一定量以上のアルコール摂取の危険性を広く啓発するため、県民公開

講座を開催（H27年3月 参加者 226名）しました。

引き続き、充実した治療プログラムを提供するとともに、アルコール専門のデイケアを実施するなど、外来患者のニーズに対応した取組を進めていく必要があります。

なお、当院は、「三重県飲酒運転^{ゼロ}をめざす条例」に基づく指定医療機関であることから、飲酒運転違反者の診断や普及啓発活動についても積極的に取り組んでいきます。

目標項目	H26 目標	H26 実績
アルコール病棟入院患者数（人／日）	38.0	32.2

③ 認知症治療

平成26年4月から、もの忘れ外来を拡充（週2回 → 週3回）するとともに、「認知症疾患医療センター」として、認知症相談（447件）を実施しました。さらに、地域住民や患者を対象とした研修会の開催（H26年6月 参加者約270名）及び認知症治療に関するパンフレットの配布などに取り組みました。診療体制の充実等により、認知症治療病棟の新規入院患者は大幅に増加（H25年度46人 → H26年度82人）しましたが、平均在院日数が短縮（H25年度184.9日 → H26年度165.7日）したことなどにより、1日当たりの入院患者数は、目標までには至りませんでした。

引き続き、認知症に対する専門的医療を提供するとともに、「認知症疾患医療センター」として家族等からの相談対応や普及啓発を行うなど関係機関と連携を図りながら、本県における認知症の治療や相談に係る拠点施設としての役割を担っていく必要があります。



認知症に関するパンフレット



市民公開講座（認知症を知ろう）
平成26年6月14日開催

目標項目	H26 目標	H26 実績
認知症治療病棟入院患者数（人／日）	44.0	38.8

④ 重度療養患者に対する治療

統合失調症などにおいて、標準的な精神科医療を提供しているにもかかわらず治療の効果が現れにくい患者（重度療養患者）に対する効果的な治療を実施するに当たって必要となる他の医療機関との協力体制の構築を図りました。

今後は、円滑、適切な治療を進めていくとともに、他の精神科病院等からの受入れなど治療態勢の拡充等についても検討していく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
重度療養患者医療体制構築	検討	構築

3 経営の健全化及び業務改善に向けた取組

(1) 経営の健全化に向けた取組

① 病院機能の再編・推進を踏まえた健全経営

精神科医療における「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という考え方を踏まえた様々な早期退院を促進する取組により、平均在院日数が短縮（H25 年度 122.5 日 → H26 年度 114.0 日）し、延べ入院患者数の減少（H25 年度 107,910 人 → H26 年度 102,748 人）につながったことなどから、医業収益が減少（H25 年度 2,166,464 千円 → H26 年度 2,146,139 千円）しましたが、経常損益については、前年度に引き続き黒字を確保することができました。

引き続き、診療報酬改定の動向等を見定め、医療サービスが収益にも確実に反映できるよう対応していく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 見込
経常収支比率（％）	105.8	102.0

② 外来収益

一般外来や、もの忘れ外来、アルコール外来といった専門外来の診療枠の拡充により外来患者数の確保に努め、1日当たりの外来患者数は増加（H25 年度 253.0 人/日 → H26 年度 260.1 人/日）し、外来収益についても増加（H25 年度 356,202 千円 → H26 年度 356,879 千円）したものの、外来患者数は目標数には至りませんでした。

引き続き、病診連携の一層の推進による紹介患者の確保や、デイケア、作業療法に係る取組の充実等により、患者数の増加を図っていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
外来患者数（人/日）	270.0	260.1

③ 入院収益

平均在院日数の短縮（H25 年度 122.5 日 → H26 年度 114.0 日）に伴って、延べ入院患者数は減少（H25 年度 107,910 人 → H26 年度 102,748 人）し、入院収

益についても減少（H25年度 1,785,587千円 → H26年度 1,766,773千円）となり、延べ入院患者の目標数を確保することができませんでした。

引き続き、適切な病床運用による病床稼働率の向上を図るなど、入院収益の確保に努める必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
延べ入院患者数（人）	115,340	102,748

（２）業務改善に向けた取組

① 患者や家族の皆さんの視点に立った医療の提供

当院における医療行為や研究等が、患者や家族の皆さんの権利に十分配慮し、倫理的な観点からも適切に実施していけるよう、院内の関係者による会議等において具体的な課題についての検討を進めるとともに、院内研修を実施しました。

なお、平成26年度においては、関係職員による課題検討が取組の中心となったことから、医療倫理委員会の開催は目標数には至りませんでした。

引き続き、院内の医療倫理の一層の向上に向けた課題検討や職員意識の醸成に努めていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
医療倫理委員会開催数（回）	9	1

② 医療安全対策

ヒヤリハット事例の収集、分析等による再発防止策の検討や医療安全研修会の実施による職員の意識、知識の向上等に努めました。

引き続き、全ての職員が危機意識をもって安心、安全な医療対応ができるよう、研修の充実や各種マニュアルの見直し等により医療安全に係る対応力の強化に努めていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
医療安全研修参加率（％）	83.0	90.6

③ 患者満足度の向上

院内の接遇委員会を中心に、患者アンケートの結果等を踏まえ、患者満足度の向上に向けた取組を進めており、平成26年度は施設や設備面の改善等とともに、患者や家族の皆さんとのコミュニケーション能力（会話力、雑談力）を高める研修を実施しました。こうした取組の結果、患者アンケートでの患者満足度（推薦率）は、前年度を上回り（H25年度 71.3% → H26年度 75.8%）でしたが、目標を達成することはできませんでした。

引き続き、患者アンケート等における患者の皆さんの声を踏まえながら、効果的な研修や必要となる取組を進めていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
患者満足度（％）	83.5	75.8

第2章 一志病院

平成26年度の取組成果と残された課題（総括）

一志病院においては、幅広い臨床能力を有する家庭医を中心とした家庭医療の提供、研修医や医学生の積極的な受入れによる人材育成、家庭医療等に関する実践的で先進的な研究を進めてきました。

1 地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり

保健・医療・福祉の多職種の関係者で構成する「白山・美杉顔の見える会」を定期的に開催し、地域において顔の見える関係づくり、連携体制づくりを進めました。

さらに、これら多職種の関係者及び民生・児童委員や生活・介護支援サポーターの参画により、健康づくり、医療、介護をテーマとするイベント「白山・美杉在宅ケアみんなで考える集い」を開催し、地域住民の意識の向上や関係者の一体感の醸成につなげました。

また、消防団員を対象としたトリアージ講習や消防団との合同開催による防災（災害医療）訓練の実施など、高齢化が進む地域において包括的で全人的な医療の体制づくりのための取組を進めてきました。

引き続き、住民参画型の多職種連携を進めながら、白山・美杉地域の保健・医療・福祉のネットワークを強化していく必要があります。

2 家庭医を中心とした地域医療の取組

(1) 過疎化、高齢化が進む地域では、身近な病気をはじめ、けがや心の悩みへの対応、入院医療、病気の予防などの総合的な診療が求められていることから、幅広い臨床能力を有する家庭医を中心とした医療サービスを提供しました。

また、県立病院である当院の機能を他地域においても生かすことができるよう、平成26年9月に、「へき地医療拠点病院」の指定を受け、県内のへき地診療所への代診医派遣を行いました。

今後も、全国の医療過疎を解決する病院のモデルをめざし、家庭医を中心とした地域医療の取組を進めていく必要があります。

(2) 過疎化、高齢化が進む中、在宅医療に対するニーズがより一層高まっていることから、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導などに取り組み、平成26年12月からは新たに管理栄養士による訪問栄養指導を実施しました。

引き続き、地域のニーズを的確に把握し、在宅療養支援に取り組んでいく必要があります。

(3) 初期救急医療を担う医療機関として、24時間365日対応できる体制を維持するとともに、津市消防本部、白山消防署等の救急隊との定期的な合同勉強会の開催や白山消防署とのホットラインの活用など、救急患者の一層の受入れに対応できる取組を行った結果、前年度に引き続き1,000件を超える救急患者の受入れを行

うことができました。

引き続き、消防機関との連携強化を進めながら、24時間365日の救急患者の受入体制を維持していく必要があります。

3 地域医療を担う人材の教育

地域医療を担う医師の不足に対応するため、家庭医の育成について、全国に先駆けて取り組んできた三重大と連携し、初期研修医、医学生を受入れるとともに、後期研修医を受入れました。また、地域において家庭医療を推進していくためには、家庭医だけでなく地域看護に取り組む意欲のある看護師等が必要なことから、看護師の養成機関等と連携し、実習生の受入れを行いました。

引き続き、研修医、医学生、看護実習生等の受入れを積極的に行うなど、医療従事者の育成支援に取り組んでいく必要があります。

4 経営の健全化に向けた取組

- (1) 幅広い臨床能力を有する家庭医を中心として家庭医療を実践した結果、平成26年度は、前年度と比べて患者数が若干減少し、医業収益も減少しましたが、経常損益については、前年度に引き続き黒字を確保することができました。

引き続き、地域における医療ニーズを踏まえ、必要とされる医療サービスを安定的に提供していく必要があります。

- (2) 収益確保を図るため、院内において「診療報酬検討会」を定期的を開催するとともに、費用縮減を図るため、診療材料等の適正な管理や経費節減に取り組みました。

引き続き、健全な経営を進めるため、収益の確保や費用の縮減に積極的に取り組んでいく必要があります。

平成26年度の目標に対する成果と課題

1 重点的な取組

地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり

医師、看護師などの医療関係者やケアマネージャー、社会福祉士などの福祉関係者、保健師、市職員などの保健関係者など多数の参加を得た「白山・美杉顔の見える会」の開催や、消防団との合同開催による防災訓練等を通じて、地域住民の意識の向上や関係者の一体感の醸成につなげました。これらの取組の結果、地域に最適な医療体制づくりの参加機関数の目標を達成することができました。

引き続き、多職種が連携した取組を定着させるとともに、地域住民の皆さんの参画を促進していく必要があります。

主な取組の概要

➤白山・美杉在宅ケアみんなで考える集い

開催日：平成26年7月26日（土）13:00～16:00

参加者数：約220名（地域住民、保健・医療・福祉関係者）

内容：有識者による講演、寸劇、シンポジウム

➤白山・美杉顔の見える会

〈取組〉支援困難な事例について、多職種、地域住民が課題・支援方法を検討

開催日：平成26年12月13日（土）13:00～15:00

参加者数：54名（民生・児童委員、生活・介護支援サポーター、保健・医療・福祉関係者）

検討テーマ：在宅での生活を希望する病気がちの独居高齢者を支援したい。

開催日：平成27年2月18日（水）18:30～20:00

参加者数：43名（民生・児童委員、三重大学医学生、保健・医療・福祉関係者）

検討テーマ：①介護サービスを望まない家族と同居する日常生活が困難な認知症高齢者を支援したい。

②介護者のいない金銭管理等が困難な独居高齢者を支援したい



白山・美杉在宅ケアみんなで考える集い（寸劇）
平成26年7月26日開催



白山・美杉顔の見える会
平成26年12月13日開催

目標項目	H26 目標	H26 実績
地域に最適な医療の体制づくり参加機関数 (者)	1 3	1 4

2 役割及び機能の充実に向けた取組

(1) 家庭医を中心とした地域医療の取組

① 家庭医療

三重大学の協力を得ながら家庭医の診療体制を充実することにより、病気の治療だけでなく、予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスの安定的な提供に取り組みました。また、病院のホームページに病院の取組をトピックスとして掲載するなど、地域住民の皆さんなどに対し、情報提供を積極的に行いました。

外来患者数については、前年度を若干下回る（H25 年度 105.4 人/日 → H26 年度 104.7 人/日）結果となり、目標数には至りませんでした。

また、平成26年9月には、へき地診療所への代診医派遣等を行う「へき地医療拠点病院」の指定を受け、代診医の派遣（2回）を行いました。

引き続き、家庭医を中心とした、全人的な医療サービスの安定的な提供に努めるとともに、県内他地域の地域医療を支援する役割を担っていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
家庭医療等外来患者数 (人/日) (予防医療受診者等を含む。)	1 0 9 . 0	1 0 4 . 7

② 地域に最適な包括的で全人的な医療の体制づくり

医師、看護師などの医療関係者やケアマネージャー、社会福祉士などの福祉関係者、保健師、市職員などの保健関係者など多数の参加を得た「白山・美杉顔の見える会」の開催や、消防団との合同開催による防災訓練等を通じて、地域住民の意識の向上や関係者の一体感の醸成につなげました。これらの取組の結果、地域に最適な医療体制づくりの参加機関数の目標を達成することができました。

引き続き、多職種が連携した取組を定着させるとともに、地域住民の皆さんの参画を促進していく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
地域に最適な医療の体制づくり参加機関数 (者) 【再掲】	1 3	1 4

③ 予防医療

住民健診やがん検診、人間ドック等による予防医療に取り組むとともに、地域住民の皆さんの健康管理に対する意識啓発の場として、健康教室（11回）や糖尿病教室（10回）、出前講座（8回）を実施しました。

これらの取組の結果、健康診断等の受診者数が増加（H25 年度 1,196 人 → H26

年度 1,300 人) し、受検者の目標を達成することができました。

引き続き、健康教室等を開催し、地域住民の皆さんの健康管理に対する意識啓発を図りながら、予防医療を推進していく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
住民健診・がん検診受検者 (人)	1, 180	1, 300

④ 在宅療養支援

訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導など、在宅医療の提供に取り組み、平成 26 年 12 月からは管理栄養士による訪問栄養指導を開始しました。この結果、訪問診療、訪問看護等の延べ患者数は、目標を達成することができました。

引き続き、多職種連携の取組で築いた顔の見える関係を生かして、地域の診療所や介護施設、保健師やケアマネージャー等と連携し、在宅療養支援に取り組んでいく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション等延べ患者数 (人)	3, 240	3, 424

⑤ 救急医療

初期救急医療を担う医療機関として、24 時間 365 日対応できる体制を維持するとともに、津市消防本部、白山消防署等の救急隊との定期的な合同勉強会の開催 (H26 年 5 月) や白山消防署とのホットラインの活用など、救急患者の一層の受入れに対応できる取組を行った結果、受入件数の目標を達成することができました。

引き続き、消防機関との連携強化を進めながら、24 時間 365 日の救急患者の受入体制を維持していく必要があります。



津市消防本部等との合同勉強会
平成 26 年 5 月 28 日開催

目標項目	H26 目標	H26 実績
救急患者受入件数（人） （救急車搬送患者を含む。）	1, 0 0 0	1, 1 8 2

（２）地域医療を担う人材の教育

① 家庭医の育成

家庭医（総合診療医）育成拠点施設として、初期研修医（11人）、医学生（33人）を受入れるとともに、後期研修医（2人）を受入れるなど、大学等からの受入れ依頼に100%対応しましたが、受入目標数には至りませんでした。

引き続き、家庭医の育成について、全国に先駆けて取り組んできた三重大学と連携し、当院をフィールドにした実践的な研修を行うなど、家庭医の育成に積極的に取り組んでいく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
初期研修医・医学生受入人数（人）	4 9	4 4

② 看護師等の育成

地域看護の実践を通じて一人ひとりの意識の向上を図るとともに、三重大学(2人)や県立白山高校(22人)からの受入れ依頼に100%対応する目標を達成することができました。

また、家庭医療エキスパートナース講演会を開催（2回）し、地域看護に関心を持つ看護師等の育成支援に取り組みました。

引き続き、関係機関と連携を密にし、看護師等の育成に向けた取組を進めていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
看護実習等受入率（%）	1 0 0. 0	1 0 0. 0

③ 医療従事者の能力向上

専門的な研修等に関する情報を収集・提供するとともに、勤務シフトの考慮や院内研修会の開催数を増加させるなど、学会、研修等に参加しやすい環境づくりに努めた結果、学会、研修、カンファレンス等に全職員が参加する目標を達成することができました。

引き続き、医師、看護師、医療技術職及び医療事務に従事する職員が、それぞれの専門性を向上させるための支援を充実させていく必要があります。

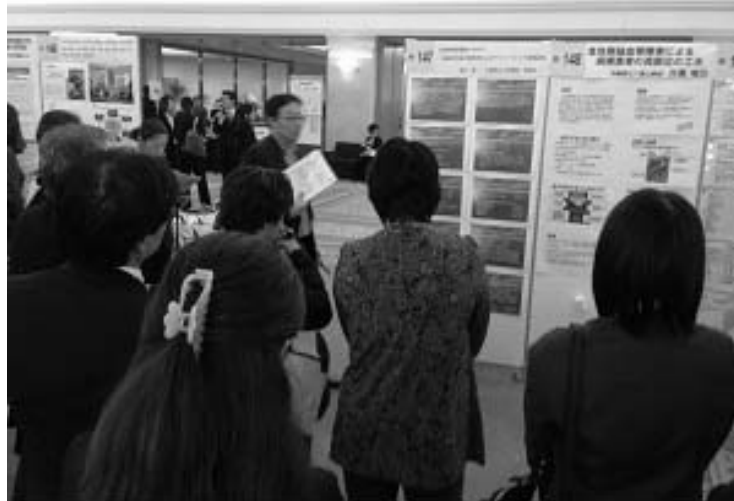
目標項目	H26 目標	H26 実績
学会、研修、カンファレンス等の参加率（%）	1 0 0. 0	1 0 0. 0

（３）家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究

院内の「研究やろう会」の開催（13回）等を通じて、研究に対する意欲の醸成や体制整備に努めた結果、学会等での研究発表（17件）や学術雑誌等への論文発

表（11件）は、前年度を大きく上回り（H25年度20件 → H26年度28件）、発表件数の目標を達成することができました。

引き続き、家庭医療、地域医療、医療教育に関する実践的で先進的な研究を行うため、カンファレンス等を通じて職員一人ひとりの研究意欲を醸成するとともに、研究のための環境づくりに取り組んでいく必要があります。



全国自治体病院学会における発表
平成26年10月30日開催

目標項目	H26 目標	H26 実績
学会発表・論文発表件数（件）	14	28

3 経営の健全化及び業務改善に向けた取組

（1）経営の健全化に向けた取組

① 収支改善

幅広い臨床能力を有する家庭医を中心として家庭医療を提供した結果、平成26年度は前年度に比べて、患者数は若干減少（入院：H25年度35.7人/日 → H26年度33.7人/日、外来：H25年度90.4人/日 → H26年度88.4人/日）したものの、健康診断等受診者数が増加（H25年度1,196人 → H26年度1,300人）したことなどから、経常収支比率100%の目標を達成することができました。

引き続き、地域における医療ニーズを踏まえ、必要とされる医療サービスを安定的に提供していくことで収益の確保を図るとともに、材料費や経費等の縮減に努め、一層の経営健全化を進めていく必要があります。

また、診療報酬改定等の動向を見定め、医療サービスが収益にも確実に反映できるように対応していく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
経常収支比率（%）	100.0	102.5

② 収益確保

収益確保を図るため、院内において「診療報酬検討会」を毎月開催（12回）

し、開催回数の目標を達成することができました。こうした検討を通じて、診療報酬上の施設基準を新たに取得するとともに、関係部門の連携による請求漏れ対策や減点対策等に取り組みました。

引き続き、これらの取組を継続していく必要があります。

また、地域の関係機関との連携を一層強化するとともに、イベント等への積極的な参加や協力を進める中で、当院の機能や役割を紹介することにより、患者数の増につなげていきます。

目標項目	H26 目標	H26 実績
診療報酬検討会開催回数（回）	12	12

③ 費用縮減

投薬の院外処方の推進により薬品在庫量の縮減につながったことなどから、材料費、経費に係る目標を達成することができました。

今後も、職員一人ひとりのコスト意識を徹底するとともに、診療材料等の適正な在庫管理を行い、材料費や経費の節減に努めていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
材料費、経費対医業収益比率（%）	50.4	46.8

（2）業務改善に向けた取組

① 医療情報システムの導入

当院の規模特性や収益性を勘案したシステムを平成27年1月に導入しました。

今後は、当該システムを適切に運用していく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
システム導入の検討	システム導入	システム導入

② 休止中の施設活用の検討

病院の理想像等を検討する「夢プロジェクト」を院内に設置し、病院のありたい姿についての意見交換を開始しました。

目標項目	H26 目標	H26 実績
休止中の施設の活用方法の検討	検討開始	検討開始

③ 患者満足度の向上

院内接遇委員会を中心として、接遇研修の開催（H26年6月）や接遇チェック表を活用した全職員参加の定期的な評価の実施、接遇月間目標の設定など、職員一人ひとりの接遇能力の向上に取り組みました。

また、患者や地域住民の皆さん、職員から寄せられた提案等を実現できるよう、ワーキンググループ活動等を通じた業務改善に取り組みました。

平成26年度は、満足度の目標を達成することができませんでしたが、これら

の取組を引き続き推進することで、患者満足度（推薦率）の向上に努めていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
患者満足度（%）	84.0	75.0

第3章 県立病院課

平成26年度の取組成果と残された課題（総括）

各県立病院がそれぞれの役割及び機能を十分に発揮し、県民に良質で満足度の高い医療を安定的、継続的に提供できるよう、医師、看護師の確保や各病院の経営改善の支援等に取り組みました。

1 医師、看護師の確保

医師確保については、三重大学等への医師派遣の継続的な要請や研修環境の充実などの環境整備に取り組みました。

また、看護師確保については、看護師を養成する大学や専門学校等を積極的に訪問したほか、合同就職説明会への参加などに取り組みました。

引き続き、医師、看護師の確保に積極的に取り組んでいく必要があります。

2 病院の経営面の改善・支援

(1) 県立病院課の職員が各病院の経営会議等に参加し、様々な経営課題について協働で対応していくなど、病院の経営面の改善・支援に取り組みました。

(2) 未収金については、担当者会議を定期的を開催するなど、情報の共有化を進めるとともに、発生防止と早期回収の両面からの支援を行いました。

引き続き、各病院の健全経営に向けて、積極的に支援していく必要があります。

3 志摩病院指定管理者に対する指導・監督

指定管理者制度を導入した県立志摩病院について、病院事業庁長と指定管理者(公益社団法人 地域医療振興協会)の代表者等で構成する「志摩病院管理運営協議会」を開催し、診療体制の回復・充実に向けた意見交換を行い、対応策について実施を求めるとともに、指定管理者から毎月提出される業務報告により経営状況を把握し、必要となる改善策の実施等について要請を行ってきました。

また、県立志摩病院の運営状況に関する周知と今後の病院運営における地域の意見の反映を目的として、平成27年1月に「県立志摩病院に関する地域の皆さんとの懇談会」を志摩市内で開催しました。

引き続き、指定管理者と緊密に連携しつつ、適切な指導・監督を行っていくことにより、診療体制の回復・充実を着実に進め、志摩地域の医療の充実につなげていく必要があります。

平成26年度の目標に対する成果と課題

1 重点的な取組

医師、看護師の確保

医師については、三重大学等への医師派遣の要請を継続的に行い、看護師については、看護師を養成する大学や専門学校等を積極的に訪問したほか、合同就職説明会へ参加するなど、医師、看護師の確保のための取組を行いました。

また、医師、看護師の定着を図るため、関係図書を整備や学会等研修参加経費の支援を行うとともに、子育て支援制度の運用や院内保育所の運営など、医師、看護師にとって働きやすい魅力のある病院をめざした取組を進めました。

引き続き、こうした医師、看護師の確保に向けた取組を継続していく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
常勤医師充足率 (%)	90.0	78.2
看護師充足率 (%)	100.0	100.0

2 役割及び機能の充実に向けた取組

(1) 戦略的な経営の推進

病院事業庁経営会議等を通じて病院の運営状況を的確に把握・分析しつつ、各病院に対して、戦略的な経営の推進に資する企画提案を行うとともに、国、県の医療政策の動向や病院運営にかかる先進的な取組などの情報を収集し、病院に提供しました。

今後、県（健康福祉部）において策定が進められる地域医療構想や国による診療報酬改定の内容をはじめとする様々な重要情報を適切なタイミングで収集・提供していく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
情報提供数 (件/月)	2.0	2.3

(2) 人材の確保・育成

① 医師の確保

医師確保については、様々な機会をとらえて、三重大学等へ医師派遣の要請を行っているところであり、引き続き、要請を継続させながら、勤務医にとって魅力のある病院づくりを進めていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
常勤医師充足率 (%)【再掲】	90.0	78.2

② 看護師等の確保・定着

看護師やその他の医療技術職員を安定的に確保するため、大学や専門学校等の

養成機関への積極的な訪問や合同就職説明会への参加などに取り組むとともに、採用試験を複数回（6回）実施するなど、採用機会の拡大を図りました。

また、看護能力を段階的に向上させる研修の仕組み（キャリアラダー）の導入を通じて、専門性を高めながら就労意欲の向上につながる環境づくりを進めるとともに、子育て支援制度の運用や院内保育所の運営など、看護師の定着に向けた取組を進めました。

引き続き、看護師等の確保・定着に向けた取組を充実させていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
看護師充足率（%）【再掲】	100.0	100.0

③ 職員の専門性の向上

県立の5つの医療機関で構成している「看護職員連携協議会」（事務局:県立病院課）が実施する様々な教育・研修事業や医療安全に関する活動等を通して、医療従事者が専門的な知識や技術を継続的に習得・向上できるよう支援しました。

また、事務職員についても、経理、企画、医事、労務管理等、経営の健全化や安定化を図るための能力向上に資する研修等に計画的に参加できる環境づくりを進めました。

引き続き、職員の専門性を維持、向上させていくため、職員の意識を高めながら、有効な研修の機会を拡充していく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
能力向上にかかる研修参加回数（回）	27	28

3 経営の健全化及び業務改善に向けた取組

（1）経営の健全化及び業務改善

① 病院の経営面の改善・支援

病院事業庁長と各県立病院長（志摩病院を除く）等で構成する病院事業庁経営会議の開催（5回）や、病院事業庁長と各病院の運営調整部長等による会議の開催（7回）を通じて、各病院の経営状況や現状の取組、病院事業全体の経営状況についての情報共有を図るとともに、各病院において開催している経営会議等に県立病院課職員が参加するなど、各病院との連携を密にしながら、様々な経営課題についての支援に取り組みました。

未収金については、定期的に担当者会議を開催（2回）し、各病院間の現状や取組状況を共有しながら、発生防止・早期回収に向けた取組・支援を進めました。

引き続き、各病院と緊密に連携し一層の経営改善に努めていく必要があります。

目標項目	H26 目標	H26 実績
経常収支比率（%）	104.4	102.1

※こころの医療センター、一志病院及び県立病院課を合わせた数値

② 志摩病院指定管理者の指導・監督

指定管理者制度を導入した県立志摩病院について、病院事業庁長と指定管理者の代表者等により年2回開催する管理運営協議会や毎月の業務報告書の聴き取り等において運営状況の詳細把握を行いながら、課題等について協議・調整を行うとともに、病院の運営状況の周知及び地域の皆さんの意見を病院運営に反映させることを目的に、「地域の皆さんとの懇談会」を開催（H27年1月）しました。

また、三重大学に対する医師派遣の要請活動についても、病院事業庁と指定管理者が連携し、合同で実施しました。

引き続き、指定管理者と連携しながら、関係機関への要請や調整等を進めつつ、24時間365日の救急体制の早期実現など、診療体制のさらなる回復に向けて取り組んでいく必要があります。



県立志摩病院に関する地域の皆さんとの懇談会
平成27年1月30日開催

目標項目	H26 目標	H26 実績
1日平均入院患者数（人／日）	220.0	205.7
1日平均外来患者数（人／日）	312.4	307.9

（2）県立病院改革にかかる取組

こころの医療センターについては、精神科医療のニーズに応じた一層効果的・効率的な病院運営が行えるよう、組織の運営や人材育成、経営改善等に係る課題整理などを引き続き進めていく必要があります。

一志病院については、県（健康福祉部）が中心となって進める病院のあり方に関する検討において、病院を運営する立場から、家庭医療を中心とした取組の成果等を踏まえながら積極的に参画していく必要があります。

用語解説

あ行

アウトリーチ（サービス）

医師、看護師、精神保健福祉士など医療・福祉関係者が患者のもとに直接出向いて心理的なケアや必要とされる支援を行うこと。

か行

家庭医（総合診療医）

患者の年齢、性別、疾患などに関わらず、地域住民の健康を支える医師のこと。患者や家族と密接な連携を保つことで、予防、治療、リハビリテーションなどを行う。

家庭医療

総合的に患者を診ること。プライマリケア、総合診療等さまざまな用語が用いられ、また、さまざまな概念、解釈が存在している。

寛解（率）

病気の症状が、入院時に比べ改善され退院できる状態になったこと。（そのようになった率）

キャリアラダー

キャリアデザインの実現を図れるよう、キャリア向上の道筋を設定し、専門知識や技術を段階的に習得する機会を提供するキャリアアップのためのしくみのこと。

ケアマネージャー

介護支援専門員のこと。介護が必要な人のために、介護サービスだけでなく、家族介護やその他地域サービスを組み合わせた「サービスの利用計画」を作成し、要介護高齢者等が自立した生活を送ることを援助する専門職のこと。

経常収支比率

「(医業収益+医業外収益) / (医業費用+医業外費用)」で、比率が高いほどよい。

こころしっとこセミナー

県民の皆さんに精神障がい者や精神疾患に対する正しい理解を広めるため、こころの医療センターが企業や団体等の依頼に応じて実施する出前講座のこと。

さ行

在宅医療

患者の居宅で行う医療のこと。医師が診療する訪問診療、看護師が行う訪問看護等がある。

材料費、経費対医業収益比率

「(材料費+経費) / 医業収益」で、比率が低いほどよい。

作業療法

身体または精神に障がいのある人に対し、主体的な生活が獲得できるように諸機能の回復と維持、さらに開発を促す作業活動を用いて治療や指導、援助を行うこと。

指定管理者制度

公の施設の管理・運営を、株式会社をはじめとする営利企業、財団・社団法人、NPO 法人などの法人やその他の団体に包括的に代行させる制度のこと。

診療報酬

保険診療における医療サービスの公定価格のこと。医療行為ごとに診療報酬点数に基づき点数が付けられ、1 点が 10 円として計算される。

精神科急性期医療

精神疾患発症初期の急性期に、緊急的に処置または対応する医療体制のこと。

精神障がい者地域移行・地域定着支援事業

地域社会への移行が見込める精神障がい者（長期入院患者）が、地域で生活していける社会をめざして、地域関係機関の連携のもと退院支援等を行う事業のこと。

精神保健指定医

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第 18 条に基づき資格が認定される精神科医師のこと。

精神科においては、障がい者の適切な医療を受ける権利を擁護するために、精神障がい者の人権に配慮した適切な医療・処遇を強制する必要が生じるが、この医療行為と人権への微妙な配慮に迫られる極めて重要な職務の全責任を負う存在として位置づけられている。

全人的な医療

人間を、身体や精神、心理などの一側面のみから見るのではなく、人格や社会的立場なども含めた総合的な観点から捉えて、身体的な治療に終始しない総合的医療をそれぞれの患者に応じて行うこと。

専門看護師

日本看護協会専門看護師認定試験に合格し、より困難で複雑な健康問題を抱えた人、家族、地域等に対して、より質の高い看護を提供するための知識や技術を備えた看護師のこと。

措置診察

精神障がいがあり、自傷他害のおそれがあるとみなされる場合、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第 27 条及び第 29 条に基づき、強制入院させるかどうか判断するために行われる診察のこと。2 人の精神保健指定医によって行われる。

た行

デイケア

高齢者や障がい者などが通院し、リハビリテーション（娯楽や作業を含む。）や日常生活などを行うこと。

な行

認知症疾患医療センター

認知症の専門治療、周辺症状の急性期対応、身体合併症への対応、専門医療相談、地域の医療・介護関係者への研修等を行い、地域における医療と介護の連携の拠点として都道府県から指定を受けた機関のこと。

認定看護師

日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有することを認定され、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う看護師のこと。

は行

訪問栄養指導

管理栄養士が居宅を訪問して、療養上に必要な栄養や食事の管理及び指導を行うこと。

訪問看護

看護師等が居宅を訪問して、療養上の世話または必要な診療の援助を行うこと。

訪問診療

通院が困難な者や介護が必要な者、退院後のケアが必要な者に対して、医師等が居宅を訪問して定期的かつ計画的に行う医療のこと。

※「往診」は、通常の具体が悪くなったときの臨時的な診療。

訪問薬剤指導

通院が困難な者に対して、薬剤師が居宅を訪問して患者又はその家族等に服薬指導や服薬支援等を行うこと。

訪問リハビリテーション

要介護者を対象に理学療法士や作業療法士、言語聴覚士などが居宅を訪問し、理学療法や作業療法等によるリハビリテーションを行うこと。

ま行

三重県精神科救急医療システム

休日や夜間に発症した急患の診察や入院に対応するための、三重県内の13精神科病院による北部と中南部の2ブロックでの毎日輪番制や、同じく精神科病院の輪番制での24時間（休日等を含む。）の電話相談窓口設置体制のこと。

や行

ユース・メンタルサポートセンターM I E (YMSC-MIE)

若者の精神疾患の早期治療を行うために、平成20年10月にこころの医療センター内に設置した、学校やかかりつけ医と連携した支援センターのこと。

